

様式第2号

視察研修先	青森県八戸市	氏名	沖津一博
視察研修項目	八戸市の観光について (8base)について 八戸ブックセンターについて		
<p>北の創造都市。</p> <p>八戸市は、太平洋に臨む青森県の東南部に位置し、夏は偏東風(やませ)の影響を受け涼しく、冬は晴天が多く乾燥し又、北東北にありながら降雪量も少なく、日照時間が長い事も特徴です。</p> <p>観光については2大祭り、八戸三社大祭、八戸えんぶり、と大きな祭りが有り、八戸の(食)も多彩、八戸せんべい汁、八戸ブイヤベース、いちご煮、八戸前沖さばイカ、八戸前沖ふぐ、食用菊、糠塚きゅうり、お酒やワイン、クラフトビールなどが有り、観光客を誘致する材料があります。</p> <p>8base で実施する各種イベント概要</p> <p>八戸圏域の食と8base 及び日比谷 OKUROJI のプロモーションを目的として、全国の食好きをターゲットとした雑誌を活用したブランディングの実施。</p> <p>八戸市を中心に、8の地域が一つに成り、八戸圏域への観光誘客、将来的には居住、定住等に繋がるため、八戸圏域に縁のある方をゲストに招くなどし、八戸圏域の魅力を語る交流会を実施。</p> <p>商業施設(日比谷 OKUROJI)内に開業、令和6年6月に来店者数100万人を達成。飲食、物販、交流をメインにふるさと気分になって頂ける為のファンミーティングなどを行っています。海の幸を使った創作郷土料理と地酒を提供。</p> <p>定番から個性的なものまで、各地地場産品をラインナップ。八戸圏域の魅力を体感できる交流会、PR イベントを開催するなど地域おこしに頑張っています。</p> <p>近隣の自治体と一緒に地域を発展を願い、広域観光やイベントを通して、近隣と共に進める姿は本市でも参考にしなければなりません。</p> <p>八戸ブックセンターについて</p> <p>ブックセンターは、全国初の、まったく新しい書店のかたちです。</p> <p>基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、本を読む人をふやす、読み始めるきっかけとなるようイベントの開催などをおこないます。 2、本を書く人をふやす。本を書く人を増やす為、執筆する為のブースを備え出版の相談窓口やワークショップの開催などをおこないます。 3、本でまちを盛り上げる、本を読むことで得た知識や情報、思考などを共有することで、より深く楽しむ事が出来るものでもあります。 			

自治体が本を販売する珍しいケースです。民間の書店との棲み分けと公共サービスとしての役割。偶然出会う本、未読ジャンルへの誘い。本のまち読書会、ゲストを招いた読書会、作家や編集者、書評家、出版社などからゲストを招きます。

新たなジャンルへの入り口、知的好奇心を刺激する。多様なゲストで幅広い世代の方に、多元的社会の構築についてわかりやすく作る楽しさを体験、共有。本を通して、ふるさとの偉人を知る。本のまち八戸ブックフェス、市民が本に触れる機会つくるため、年1度市の中心街で市民参加型で行い、全世代が楽しめる多彩なイベントを企画しており、来場者、出店社の交流もできると評判も良く、継続を希望する意見が多いようです。八戸ブックは市内に多くの本に触れる所が有り、本のまち八戸が定着して子どもから、お年寄りまで、さまざまな機関との連携により、充実した本のまち八戸でした。

様式第2号

視察研修先	青森県 十和田市	氏名	沖津一博
視察研修項目	とわだ産品販売戦略について		
<p>十和田市は、青森県南東の内陸部にある、人口約6万人の自治体です。市の西部には、十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山系など四季の変化にとんだ美しい自然があります。明治期には陸軍軍馬局出張所が開設され、馬産地として知られるようになってきました。現在も流鏝馬や乗馬が盛んで、本市においても流鏝馬の練習や寒河江まつりに十和田市から馬を持ってきて頂いて、流鏝馬の指導をして頂いていると聞いています。</p> <p>十和田市は観光と農業のまちとして、豊かな自然を有しているほか十和田湖、奥入瀬溪流の豊かな自然、そして市街地には現代美術館を中心にアートのまちが広がり雄大な自然と現代アートが調和した観光地として、毎年多くの方が訪れています。奥入瀬溪流から水を引き広大な田畑がつけられ、いまでは東北有数の農畜産物の生産地域となりました。</p> <p>健康な土づくりで生産量日本一のにんにく。長芋、ゴボウも全国有数の生産地となっていて、和牛やガーリックポーク、十和田湖ひめますなど豊富で加工品や6次産業化も進んでいます。</p> <p>十和田市全体のブランディングも進めています。</p> <p>ブランドの定着、日本野菜ソムリエ協会との連携、十和田市産野菜の特徴をPR。食品サンプルの提供。十和田湖ひめますブランドの推進、地域団体商標登録。首都圏レストランとの連携。にんにく認知度拡大、10月29日を十和田にんにくの日と定め、道の駅を会場で、にんにくのつかみ取りや豚汁振る舞いなどのイベントを開催。また、トップセールスによるPR、産品の販路拡大、県と連携した首都圏量販店での青森産フェアの参画。飲食店やバイヤーに向けた産地見学会の実施、十和田市産食材の理解、関係構築、販路拡大へ。十和田奥入瀬観光大使(リンゴちゃん)の知名度を活用したPR。とわだ産品PRキャラクター「にんにん、ねぎん、ごんぼう、ねばっち」の十和田ふぁみりーず活動。</p> <p>豊富な農産品を活かした加工品づくりの支援。十和田市は観光、農業振興に力を入れ、官民一体となり地域の活性化に取り組む素晴らしい自治体でした。数年前も監査委員でお邪魔しましたが今回も丁寧に指導頂きお世話になりました。</p>			